



ウォータークーラー・POTEKA・障がい者生活介護事業所について

公明党 星 伸一

問 市内中学校6校へのウォータークーラーの設置理由、目的、概要について伺います。

答（教育長）…在校時間が長く、自律的に運用が可能な中学校にまず設置します。

答（教育部長）…熱中症対策として行った小中学校での試行実績から、今年度は全中学校に1台ずつ設置します。

現在、夏季休業期間中の設置に向けて準備を進めています。
問 気象観測情報システム「POTEKA（ポテカ）」の導入経緯、設置目的、機能について伺います。

答（危機管理担当部長）…昨年5月に小学校で発生した集団熱中症事案を教訓に、屋外運動の可否についての判断材料の一つとして導入しました。市内5カ所に設けた観測地点の気温・湿度・気圧・風向・風速・雨量・暑さ指数などをリアルタイムに誰でも取得できることを、今後、周知啓発することにより、市民や企業などにおける熱中症予防や大雨対策への活用を推進してまいります。

問 市で行っている支援学校卒業生への対応について伺います。また、各種障がい団体からも毎年のように福祉人材確保などの要望書が市にも出されていますが、市として福祉人材確保への対応について伺います。

答（保健福祉部長）…支援学校の生徒には、卒業後の進路をどのように選択するか、早い段階から学校と密に連携しています。福祉人材の確保では、障がい者サポートセンターや社会福祉協議会による支援などがあります。また、事業所支援策として、移動支援事業における報酬単価の見直し、物価高騰対応支援金事業、指定管理施設に対する市単独加算の創設および加算額の見直しにより、人員体制確保の一助となるよう取り組んでいます。



有鹿小学校に設置した POTEKA



香害について

涼風の会 吉田 みな子

問 香害とは、合成香料に含まれる化学物質に起因するにおいによって、頭痛や吐き気、記憶困難になるなどの健康被害のことを言います。香害により化学物質過敏症になる可能性もあり、一度発症するとわずかな化学物質に対しても症状が現れるようになり、日常生活を送ることが非常に困難になる方もいます。一人一人が気を付ければ、香害は減らすことができます。行政が、香害は公害である、という認識を持ち、啓発や周知、規制を含めた具体的な対策が必要です。学校における香害への周知と、香害についての教育長の認識を伺います。市長の香害についての認識と香害を防ぐための取り組みについて、見解を伺います。

答（教育長）…学校の空気環境は学校保健安全法の学校環境衛生基準で定められた基準を満たしていますが、市内の学校では香害で体調不良を起こす子どもがいることを認識しています。市が進めるフルインクルーシブ教育はさまざまな特性を持つ全ての子どもが学校に通えることを目指しているため、香害の問題も学校に周知しながら子どもたちにも寄り添った対応をしています。子どもたちとも情報を共有しながらみんなが通える学校づくりに取り組んでまいります。

答（市長）…香害や化学物質過敏症は周囲に理解されにくいため、相談内容の丁寧な聞き取りなど市民に寄り添った対応が大事であると認識しています。本市では多くの方に理解していただけるよう周知を図り、適切な支援を行ってまいります。

また、職員に対しても香害についての理解を深める研修などが必要と認識しています。

その他の質問

・地域公共交通について



道路の安全対策と環境美化の取り組みについて

立憲民主えびな たち 登志子

問 道路の雑草対策は単に美観の問題にとどまらず、住民の命を守る安全対策や共生社会への基盤づくり、地域の誇りにも直結する取り組みであると考えます。同様にカラス問題も、子どもや高齢者の生活動線上での安全確保、衛生環境の維持という観点から気にかかります。市の現状把握と対応状況、また今後の対応方針や改善策などを伺います。

答（市長）…市道上の雑草や樹木は定期的に除草や剪定を行うなど適切な管理に努めており、道路上に張り出した民地の樹木は土地所有者に通知し改善をお願いしています。またカラスなどの被害については、市も周知啓発を行っています。被害に遭わないためにもごみを出す際は対策を講じるよう協力をお願いしたいと思っています。

問 道路の美化や保全の取り組みは、行政の力だけでなく地域や団体の方々と手を取り合いながら取り組むことが何よりも大切だと感じます。そこで市民や団体との連携について、現在の体制状況と課題を伺います。また、今後地域の力を引き出し、支えるための市の取り組みを伺います。

答（まちづくり部長）…平成21年に道路里親制度を創設し、活動費用などを支援していますが、担い手の高齢化により活動団体数が減少していることや活動場所が安全な歩道内の植栽帯に限られているなどの課題があります。

市民の方々が地域活動を通じて地域に愛着を持っていたことは、まちづくりの推進には欠かせないものと感じており、現在はみんなのまちづくり活動等支援制度に統合して、道路に限らずまちづくりに関する自主的な活動を支援しています。

その他の質問

・新たな運動施設整備と公共スペースの公平利用および支援体制について

